

巻頭言「100年に一度の災厄を克服する技術とそれを支える人々」

2021年の10大キーワードの1つ目は「減災コミュニティ」である。減災に取り組む活動には、行政による公助の他に、自治会・町内会さらに地域協議会などのコミュニティ構成員の共助による活動がある。そこでは、ITやデジタル技術が縦横無尽に活用される。

2021年は東日本大震災から10年目となる。2020年には、地震や洪水による災害に加えて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界中で猛威を振るった。日本も大きな影響を受け、人々の生活が厳しい変容を迫られている。10大キーワードの2つ目以降に並ぶ「非接触テクノロジー」「テレワーク」「オンライン教育」「オンラインエンターテインメント」は、いずれも従来注目されている技術あるいはその応用であるが、現状においては感染症対策としての重要性が増している。

対策のための技術という後ろ向きの印象を与えてしまうが、キーワードとなっている技術と応用は、コロナ禍を克服し社会活動を持続して将来に向けて社会を発展させる希望の光を与えてくれる。コロナ禍が現在の社会生活や経済活動に与える影響は甚大であるが、約100年前にスペイン風邪が流行した時代とは明らかに状況が異なる。最新鋭の技術をフルに活用できる我々は決して徒手空拳ではなく、強力な武器を持って災厄に立ち向かえる。

強力な武器となる技術を活用するためには、インターネット回線やサーバー類、その上で動く各種サービスやアプリケーションが必須である。ここで注意すべきは、それらは無人で自動的に稼働しているのではないことである。世の中がオンラインで便利な生活を営む裏側で、それを支える人々が働き続けている。そして、ネットワークやサービスの管理運営のすべてがリモートで行えるわけではない。

コロナ禍の中で、エッセンシャルワーカーという言葉が注目を集めている。それは、医療・福祉、食糧生産、小売り、公共交通、運送、ごみ収集などに従事する、生活の維持に必要不可欠な勤労者を指す言葉である。

このエッセンシャルワーカーの中に、本来ならば、電力・通信などのインフラの維持に携わる人々が含まれるはずである。リモートワークやオンライン上の各種の活動を支える人は、紛れもなく現在の社会を支えている。ただ、その働く姿が見えにくいためか、IT業界について言及される機会は少ない。

本書を手にとって読んでいる読者の皆さまも、そのような役割に直接あるいは間接的に関わっていると思う。社会に不可欠の活動を継続している人々に心から感謝したい。

2021年1月

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC）

理事長 後藤 滋樹



1996, 1997, 1998, 1999, 2000...

[インターネット白書ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2021年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<https://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2022 Impress R&D